

明和ニュース

(NO. 6)

発行：希望に満ちた明和をつくる会 2024年10月10日

明和小・中一貫校化アンケート結果の報告

10月になってやっと秋めいた風を感じられるようになってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。7月31日から8月15日の間にご協力を願いした「一貫校化に関するアンケート集計」が終了しましたので、紙面をもって報告します。（総数251件）

質問1 あなたのことを教えてください。

【結果】 乳幼児の保護者 20件（8%） 小・中学生の保護者 37件（15%）
地域住民 178件（70%） その他 15件（6%） 無回答 1件

【考察】 現在子どもさんが小・中学校に通っている、または今後通う予定の保護者のみなさんからの「回答」が少なかった。

【対応】 今後は、子育て世代をはじめ多くの方の意見を集約して、まちづくり協議会や市教委に届ける。

質問2 一貫校化のこれまでの動きや今後のことについて知らされていますか？

【結果】 知らされている 64件（26%） 知らされていない 186件（73%）
無回答 1件

【考察】 「知らされていない」「知らないから判断ができない」等の意見が多く、子どもたちや保護者、地域住民に十分な説明がなされていないことが分かった。

【対応】 まちづくり協議会や市教委に、子どもたちや保護者、地域住民にていねいな説明と意見集約の場の設置を求める。

質問3 一貫校化について、あなたの考え方や意見を述べる場がありましたか？

【結果】 あった 31件（12%） なかった 217件（87%） 無回答 3件

【考察】 「一部の人たちで決めている」「住民の考えが聞き入れられない」等の意見に集約されるように、住民の合意形成がなされていないことが分かった。

【対応】 文科省は、「学校の統廃合には、住民の合意形成が不可欠」としている。一貫校化の動きを止めて、子ども・保護者・住民との協議の場づくりを、まちづくり協議会や市教育に要請する。

質問4 一貫校化について、あなたの考え方を聞かせてください。

【考察】 一貫校化に反対する意見には、「節目がなくなる」「人間関係の固定化」などを心配する声が多かった。その他に、授業時間が45分と50分と違うので、時計の読みない一年生はスムーズな学校生活が難しいなど、小学校と中学校との文化の違い（環境や子どもの発達段階の違い）に不安を感じていることが分かった。

賛成意見に多かったのが、「中学校が廃校になるのなら」や「他校と統合しないためには」など、「このままでは学校がなくなる」ということを前提とした意見だった。これは「小中一貫校にしないと中学校がなくなる」と説明してきたことが要因ではないか。

まずといくべきは！

【考察】 自由記述の中に、「若い人たちが住みたいと思う明和をつくることが先決だ」という意見が多く見られた。それらの意見には、「一貫校化」の前に県営住宅の建て替えなど、今ある資源を活用した魅力あるまちづくりに力を入れるべきだという提案も書かれていた。明和に人を呼び込むことは、明和の活性化に必要なことである。しかしそのため、「学校教育を利用」していいのだろうか。